

令和7年度 川内南小学校 総括評価表 1【豊かな心】

自己評価		学校関係者評価	
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価
<p>友達との人間関係を築いていくことが得意でない児童がいる。</p> <p>弱い立場にある児童の支援・サポート体制を強化する。</p>	<p>I) 豊かな心</p> <p>1 温かい人間関係を基盤として、全教職員の共通理解・協働体制による信頼感に満ちた教育を展開する。</p> <p>2 人権意識を高め、自分や周りの人を大切にすると人権教育を推進する。</p> <p>3 組織的な生徒指導体制の充実を図り、いじめや不登校の防止に努める。</p>	<p>評価指標</p> <p>1 児童・保護者アンケートによる「楽しい学校」の達成率80%以上</p> <p>児童・保護者アンケートによる「自己肯定感」の達成率80%以上</p> <p>児童・保護者アンケートによる「あいさつ」の達成率80%以上</p> <p>-----</p> <p>2 児童・保護者アンケートによる「仲間づくり」の達成率80%以上</p> <p>-----</p> <p>3 児童・保護者アンケートによる「いじめ等問題対処」の達成率80%以上</p> <p>児童・保護者アンケートによる「相談」の達成率80%以上</p>	<p>評価指標による達成度</p> <p>・「楽しい学校」の達成率は、児童87%、保護者96%と、児童、保護者とも指標を上回った。</p> <p>・「自己肯定感」の達成率は、児童72%、保護者96%と、指標を保護者は上回ったが、児童は下回った。</p> <p>・「あいさつ」の達成率は、児童84%、保護者73%と、児童は指標を上回ったが、保護者は下回った。</p> <p>-----</p> <p>・「仲間づくり」の達成率は、児童96%、保護者98%と、いずれも指標を上回った。</p> <p>-----</p> <p>・「いじめ等問題対処」の達成率は、児童80%、保護者79%と、保護者は指標を下回った。</p> <p>-----</p> <p>・「相談」の達成率は、児童80%、保護者84%と、児童、保護者ともわずかに指標を上回った。</p>
		<p>活動計画</p> <p>1 教職員と児童とのふれあいを密にし、温かい人間関係を築くとともに、児童の状況や支援の仕方について全職員で共通理解を図る。</p> <p>あいさつじゃんけん運動等、委員会や教職員が率先垂範し、誰に対しても気持ちの良いあいさつをしようとする態度を育てる。</p> <p>-----</p> <p>2 みなみっこタイム等、異学年間での交流や地域との交流、外部講師の招聘等さまざまな体験活動や特別活動を通して、自分のよさに気付き、お互いに認め合い支え合う仲間づくりを進める。</p> <p>人権教育・特別活動をさらに進め、教職員の人権意識の向上を図る。</p> <p>-----</p> <p>3 学校いじめ防止基本方針の共通理解を図り、いじめ防止こども委員会を開催するなど、全職員でいじめに対する取り組みを進める。</p> <p>児童の実態について定期的にアンケートを実施するとともに、日常の児童の実態把握に努め家庭や地域との連携を深めていく。</p>	<p>活動計画の実施状況</p> <p>・学級担任だけでなく、複数の教職員が児童とふれあう時間を確保し、意図的な声かけによって話しやすい雰囲気を作った。また、個々に応じた支援を通して状況把握に努めた。支援が必要な児童に対しては、ケース会議や校内委員会を開いて共通理解を図り、安心して学校生活を送れるように対応を考え、対処してきた。</p> <p>・教師からよいモデルとなって挨拶をしたり、児童会が中心となって校門であいさつ運動をしたりして、気持ちのよい挨拶が増えるよう取り組んだ。</p> <p>-----</p> <p>・1年生は、就学前の幼児と交流をした。1・2年生は、学校探検で一緒に活動した。中・高学年は、総合的な学習の時間や社会科の学習で、地域で働く方や施設の方を講師に招いての体験学習を行った。新体力テストの測定や避難訓練では、低学年と高学年がペアになって行った。</p> <p>・徳島市の人権学習研究大会で、人権学習を行った。人権集会では、人権学習で学んだことを発表し、人権意識を高めた。</p> <p>・外部講師を招き、SNSによる人権侵害等について、全児童が学んだ。</p> <p>・特別活動では、児童が主体的に計画・実施する経験を積み重ね、豊かな学級や学校生活を送れるようにした。</p> <p>-----</p> <p>・いじめの未然防止の方策や対処の仕方について全職員で共通理解を図ってきた。日常生活において、児童の様子を観察し、早期発見に努めた。担任だけでなく、組織として対応し、保護者と連携を取りながら、指導にあたった。</p> <p>・「いじめアンケート」により、児童の実態を把握し、迅速に対応するよう努めた。</p> <p>・休み時間も児童とともに遊び、児童の実態把握に努めた。</p> <p>・懇談や電話連絡などで、保護者に子どもの様子を伝えた。</p> <p>・本校の児童の実態と課題を把握し、具体的な方策を考えるために人権に係るアンケートを実施した。</p>
			<p>総合評価</p> <p>B</p> <p>(評定)</p> <p>(所見)</p> <p>6項目の指標のうち、児童は5項目評価指標を達成することができた。保護者は、6項目のうち4項目を達成した。「自分のことが好きだ」という質問に否定的な回答が見られ、自己肯定感の低さが見られた。</p> <p>あいさつについては、あいさつされたら、返すことができている児童もいるが、自分から進んであいさつができていない児童もいる。保護者もあいさつができていないと感じている。</p> <p>「仲間づくり」の達成率は、異学年交流「みなみっこタイム」の活動の児童、保護者とも高い評価を示している、これらの活動を通して、望ましい人間関係が作られていると思われる。</p> <p>いじめなどの問題に対して、自分で考えて解決しようとする児童の割合は、昨年よりも低下した。</p>
			<p>学校関係者の意見</p> <p>○「楽しい学校」「仲間づくり」が児童・保護者ともに90%をはるかに上回っているのは素晴らしい。先生方の日ごろのきめ細かな指導のおかげである。</p> <p>○「あいさつ」は、保護者の評価が指標を下回ったが、児童は指標を上回り、さらに昨年度よりも3%増加している。川内南小の児童は、人なつっこく自分からあいさつをする児童も多い。あいさつは、気持ちをつなぐ言葉である。家庭でも基本的なあいさつ習慣「いってらっしゃい」「いってきます」等を定着させてほしい。また、学校においても教職員や友達に自分から積極的にあいさつができる子になってほしい。</p> <p>○子どもの様子を見ると、言葉遣いが非常に乱暴に感じる時がある。相手を思いやる言語環境の中で子どもを育てていきたいと常々思っている。</p> <p>○今年度のスローガンの一つに「ピカピカお掃除」を掲げているが、美しい整った環境の中で、学校生活を送ることは非常に重要なことだと思う。家庭でも家族の一員として自分の役割を果たせるように支援してほしい。</p>
			<p>次年度への課題と今後の改善方策</p> <p>・児童が自己肯定感を高めることができるよう「ありがとうカード」等を活用した具体的な取組を進める。また、PBSを学校全体で推進できるように校内研修の充実を図る。</p> <p>・児童にとって最大の教育環境である教職員が児童との関わり方や声のかけ方に十分配慮し模範となるような声かけやあいさつを積極的に行う。</p> <p>・学校内だけでなく家庭や地域でも自分から進んであいさつができる児童を増やしていく。委員会活動によるあいさつ運動を継続するとともに、朝会など教育活動全体を通して、挨拶の意義について考えさせる指導を行う。</p> <p>・さらに望ましい仲間づくりを進めるため、異学年交流「みなみっこタイム」を通して良好な人間関係を構築し、活動内容を工夫することで、異学年交流の質を高めていく。</p> <p>・自分で考えて解決しようとする児童が減少したため、問題解決的な学習やグループワークを通して、考え方や対処法を身につけさせる。</p> <p>・保護者の評価が児童より低い項目があるため、学校の取組や児童の成長をより丁寧に発信し、理解と協力を得る機会を増やす。</p>